

I B L : Innovative Business Laboratory

カーボンニュートラルを合理的に実現する手段と算出基準の検討

「カーボンニュートラル計画づくり研究会(第1期)」 ご案内

原則、オンラインによる開催

2021年11月

株式会社リーディング・イノベーション

研究会の目的

地球温暖化を防ぐために、先進国を中心に温室効果ガス削減の取り組みを行っています。日本政府も、2030年度に向け温室効果ガスを13年度比で46%削減するという新たな目標を発表しました。この目標の達成はかなり難度が高いとも言われていますが、温室効果ガス削減(カーボンニュートラル)への取り組みが経営の最重要課題のひとつとなっており企業側は対応せざるを得ない状況となっています。

なお、CDP、SBT、RE100などの国際イニシアティブに参加する企業が増えていますが、温室効果ガスの排出量を算出し公表すると共に、排出量削減への取り組みが急務となっています。しかし、以下のような理由があり容易ではありません。

- ・直接のCO2排出量を減らす手段の中で、自社に合ったもっとも合理的(低コスト)なものを探すことが難しい
- ・再エネを導入したいが太陽光発電と風力発電はお天気次第、しかし蓄電池も容量に限界がありエネルギーミックスが難しい
- ・再エネを小売電気事業者から購入するだけでは追加性の点で評価が下がってしまう
- ・上流と下流工程(SCOPE3)での、脱炭素の計画づくりが大変
- ・植物は脱炭素に有効と思われるが、効果(CO2削減効果)の定量化と算出基準が分からない
- ・電力行政は複雑で変化も激しく理解するのが大変であり、また影響力の考察が難しい など

このように企業がカーボンニュートラルを実現していくには、CO2吸収材等の技術知識と応用力、再エネの技術知識や仕組みの設計力、電力行政の知識とトレンド把握など、幅広い知識と情報と計画立案力が必要となります。しかし、そのような専門人材は、企業内に存在していないのが実態です。

また、植物を利用した際のCO2削減量の算出方法や削減計画への組み入れ方などは基準が定まっておらず、企業側にて検討することが求められている状況です。

以上のような背景より、「企業内にて、カーボンニュートラルに関する知識と計画立案力を育てることが必要である」との声が出てきており、この一助となることを目指し本研究会を開催することとしました。

各分野の専門家のスピーチを交えながら、カーボンニュートラルに向けた知識の整理と検討を行うことで、算出の基準づくりや計画立案力向上に貢献したいと考えます。

何卒、ご参加のほどお願い申し上げます。

研究会の進め方とスケジュール

1日目

2021年12月20日(月)

【ゲストスピーチ】

加用 千裕氏 東京農工大学 大学院 農学研究院 自然環境保全学部門 准教授

- テーマ(仮題) **木材等の植物利用とCO2排出削減効果について**
～企業のCO2削減の取り組みに植物はどのように活用できるのか～

・植物は、CO2削減と共に省エネ効果もあることから注目度は高くなっています。しかし、具体的な削減効果の算出方法や基準などは企業側にて検討しなければならない状況です。ただし、これは先行して標準を作れる可能性を意味しています。CO2を削減するひとつの手段として考えられる木材利用について、専門家にお話いただき、木材の有効な活用方法を探ると共に、CO2排出削減の効果の算定方法についての考え方を学びます。

【質疑、応答と討議】

・スピーチについての質疑、応答と木材の活用に向けた検討、及び木材によるCO2削減効果の算出方法の議論

2日目

2022年1月17日(月)

【ゲストスピーチ】

上村 康之氏 株式会社巴商会 経営企画室 室長

- テーマ(仮題) **脱炭素における水素エネルギーへの期待と巴商会の取り組みについて**

・クリーンエネルギーの代表格である水素エネルギーは、第6次エネルギー基本計画にも盛り込まれており期待の大きいエネルギーです。しかし、いくつかの課題も存在しています。福島県浪江町での取り組みを含め、水素エネルギーの現状、及び期待と将来性についてお話いただきます。

【質疑、応答と討議】

・スピーチについての質疑、応答と水素エネルギーの活用方法の選択肢等の検討

3日目

2022年2月14日(月)

【再エネの仕組みの情報提示】

芦沢 誉三 株式会社リーディング・イノベーション 代表取締役

- テーマ(仮題) **再エネ導入のための自己託送等の仕組みの体系と各々の特徴について**

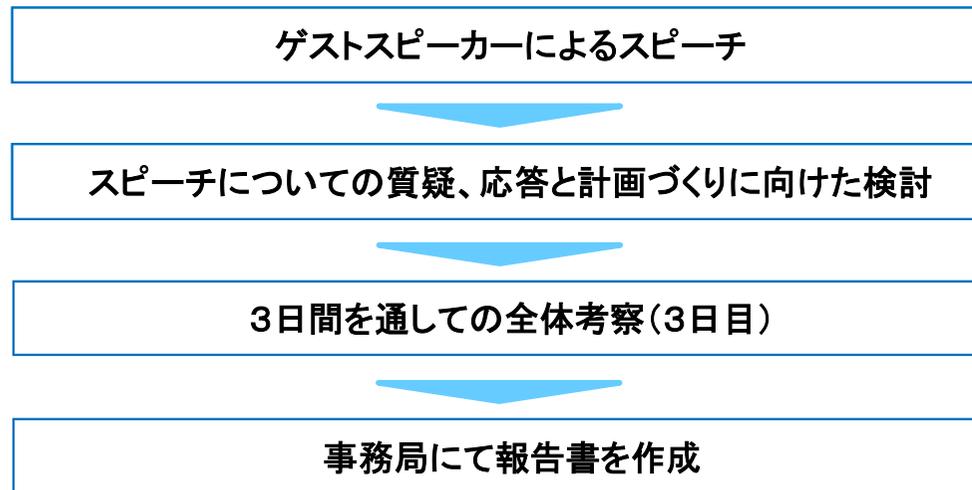
・PPA、自己託送、非FIT非化石証書など、企業の再エネ比率を高める手段は色々ありますが、各々には特徴があります。企業価値や自社との相性などを加味した際に、どのような仕組みを選択し、どのようなエネルギーミックスが適切かを検討するための情報を提供します。

【質疑、応答と討議】

・スピーチについての質疑、応答と自社に合った再エネの仕組みと適切なエネルギーミックスの考え方の議論
・3日間を通しての全体考察(特に、CO2削減効果のある手段で算出基準が定まっていなものの基準づくり検討)

研究会の進め方と開催要領

● 本研究会の進め方



● 開催日時

- 1日目：2021年12月20日（月） 13:30～17:00
- 2日目：2022年 1月17日（月） 13:30～17:00
- 3日目：2022年 2月14日（月） 13:30～17:00

● 開催方法

原則、Zoomによるオンライン
ただし、状況とご希望によりリアル開催も検討。

● 参加費

- 1名様あたり 100,000円／3日間(消費税込み)
- 1) 上記参加費で1社2名様まで参加可能。
- 2) 代理参加も可。
- 3) お申し込み後に御請求書を送付しますので、指定の口座へお振り込みいただきます。

● 定員

20社

● お申し込み方法

下記メールアドレスに、必要事項(会社名、住所、部署名、役職、氏名、TEL、メールアドレス)を添えてお申し込みください。

株式会社リーディング・イノベーション
東京都千代田区丸の内2-2-1 岸本ビルディング6階
高橋 takahashi@lead-in.com

【お問い合わせ先】

芦沢 : ashizawa@lead-in.com

TEL 03-5953-8950 FAX 03-5953-8862

参考(これまでの弊社研究会への主な参加企業:順不同)

日立製作所、NEC、富士ゼロックス、大和ハウス、日本たばこ、石川島播磨重工業、トピー工業、ブラザー工業、ブラザーエンタープライズ、神戸製鋼所、リクルート、コクヨ、ナブテスコ、アステラス製薬、日立化成、日立ソリューションズ、NTTコミュニケーションズ、リコー、パナソニック、ソニー、東京ガス、古河電気、三井不動産、松和印刷、理想科学工業、インタースペース、コニカ・ミノルタ、ヤンマー、アルプス電気、セガ、太平洋セメント、日本信号、竹中工務店、GAC、ニークシステムテクノロジー、ソライズ、ダイセル化学工業、トプコン、村田機械 三菱化学、日東電気、セイコーエプソン、日本曹達、東京プリント、旭化成ケミカルズ、リンテック、味の素、カルピス、旭化成、セコム医療システム、ラムセル、味の素、横河ブリッジ、佐藤工業、NECソリューション・イノベーターズ、京王電鉄、住友化学、デンソー、ニックス、都築電機、フジクラ、三菱化工機、巴商会、スカパーJSAT、OMデジタルソリューションズ、積水インテグレートドリサーチ、トッパン・フォームズ など